

1 日 時：令和3年10月4日(月)15:45～16:45

2 形 式：対面会議

3 出席者：

委員：内藤部会長、田中委員、松本委員、山本委員

(欠席委員)：奥貫委員

県側：大西副局長、菅原室長、小林班長

#### 4 内容

##### (1) 議題 (1)

###### [会長]

・次第に沿って進める。最初に、議題の1「北播磨新地域ビジョンの素案について」、事務局から説明をお願いします。

###### [事務局]

(省 略)

###### [会長]

・それでは議事を進める。まず、第5章「2050年の生活シーン」について、意見があればお願いします。

###### [委員]

・将来をイメージして書いてあり、提言としてイメージしやすい内容になっている。ただ、誰の意見なのかということがわかりにくい。こういう意見があるということなのか、事務局でこういう生活がイメージされるということなのか、そのあたりがわかりにくい。どこかに説明が少しでもあるとわかりやすいのではないかと思う。

・もう1つ、例えば自然環境保全の中に“北播磨 2050年の生活シーン”と書いてあり、具体的な記述があるが、少し羅列的だ。例えば、「豊かな自然」「地場産業の未来」「新しい技術と北播磨」という項目があり、それぞれにいくつかのシーンがあつてというようにすると整理しやすいが、今は順番も含めて、バラバラな感じがする。多世代交流・多文化共生についても、例えば「多世代共生」「異文化交流」「地域の継承」のような項目を立て、それぞれにまとめた意見を箇条書きにしていくと、読み手は読みやすい。少し工夫が必要かと思う。

・そして、些末な話になるが、文末に句点がない。文中は「。」がある。収まりが悪いかなと感じている。また、25ページは少し文章が長いように思う。

###### [委員]

・私も委員の意見と同じようなことを感じていた。特に2050年の生活シーンというところがわかりにくい。ここは、意見というよりも、若い世代の人たちが2050年に行った時のことを考えて、2050年の日記みたいなものが書かれているという風に読める。そうであれば、“2050年の生活シーン、今の若い世代の人たちはこんなことを感じました”とか、“2050年の日記をのぞいてみました”のような説明が一言あれば、若い人たちが、2050年に実在したときに、こうなっているといいなということを書き風で書いているのだということがわかる。そういう説明が、必ず必要だという気がした。

・そして、文末全体に句点がないのは何か理由があるのか。あまりにも不自然だ。

・この意見は語る会で出たものだったか。(事務局：ビジョン委員に照会して出た意見だ)委員の言われた、項目で整理するということがだが、項目ごとに照会したわけではないだろうから、なおさら意見がバラバラになり、難しいこともあるだろうが、あ

る程度は冊子にするときにはまとまりも意識されると思うので、委員の発言と同じ意見だ。

#### [会長]

・私が思うのは2050年の生活シーンというのは、文書に挿絵を入れるようなものかと思う。だから、その部分は字体を少し変えてもいいと思う。オフィシャルに伝えたいところはきちっとした字体にし、下の生活シーンというのは一例として述べるある意味パーソナルな部分だから、少し変えると読み手に親切かと思う。

・それから、既に検討委員会で決定してきたことなので少し戻るような話になるが、20ページの自然環境保全についてである。自然環境の保全や維持ということ言えば、社会環境や生活環境も大きな意味ではそこに入るのかもしれないが、生活シーンの中の3つのシーン。山田錦、ワインづくり、山田錦の楽しみ方は、自然環境の保全にはそぐわないように感じる。産業・雇用の分野に移すべきではないか。北播磨の「宝」である地場産業を元気にする良い例ではないか。自然環境保全というのは、今は「人新生」という言葉があるように、世界的にも異常気象で温暖化となり、非常に混乱をもたらしている。しかも東京一極集中に現れるような行き過ぎた都市化への反省に立った概念ではないのか。もう少し田舎に焦点をあて、自然と豊かにふれあう中で、田園のめぐみが生み出すという、そこに大きな価値観があるので、自然環境保全のところは、そのベースになるところをどう構築するかという内容になると思う。だからここに、他の分野とオーバーラップするようなことを入れないで、自然環境保全そのものを生かすようにもっと掘り下げてはどうか。内容が貧弱である。北播磨は自然が豊かである。しかし自然を対象とする一次産業は衰退し、山や田畑は荒れ豊かな自然を活かしきれていない。自然を保全しながら楽しむための公園、森林整備など、地球温暖化になってくるとそういうことも大事で、その価値観など、一番大事なところに絞って内容を充実させていく方がいいのではないか。

・22ページの多世代交流・多文化共生。そこに5市1町の地域間共生という概念を新しく加えたらどうか。北播磨地域というのは生産拠点でもある。経済活動を活発にするため、地域で採れたものはその中で流通するような自給圏のようなことが考えられないか。北播磨は地域的に空間的な一体感があるので、人口30万の力を活かす地域活性化策を新しく加えてはどうか。

#### [委員]

・小さなことだが、例えば目次のところで2050年と30年後という記載が混在している。意味は同じだが、他の委員はどう思われるか。

#### [委員]

・30年後の2050年の生活シーンということで、2050年のと書いてあると思う。これを30年後の生活シーンを描いていますとすると、どういう風に印象が変わるかということだと思うが、先ほどから出ているように、これをどういうものとして位置づけるかということだと思う。“2050年の日記の一部です”であれば“30年後の日記の一部です”というよりは“2050年の日記の一部です”と書いた方が伝わりやすいし、“30年後の姿をイメージして書かれています”であれば30年後の方が伝わりやすい。説明の仕方によって変わってくるが、目次は30年後になっているのに、ここでは2050年になっているのはどうかと思う。“30年後をイメージしてみましょ。2050年の日記を紹介します”ならば違和感はないように思うが、どちらにしてももう少し説明が必要かと思う。委員の意見は、どう伝えるかということが関わってくるかと思う。

## [委員]

・言葉がもっているイメージを、どういう伝え方でイメージさせるかということが反映するので、委員の説明に共感する。

## [会長]

・先ほど生活シーンの記載を整理したらという意見があったが、文章だから大体上から読んでくると思う。上に書かれている文章の印象で柱のイメージを浮かべる。それで読んでいくと、齟齬があったり違和感があったりする。だからこの順番も上の方には柱のイメージにあったものから記載するといいいのではないか。

・26 ページの産業・雇用に、「北播磨の「宝」である地場産業を元気にし」とあるが、地場産業の活性化策は難しいところがある。そろばんは地場産業だったが、今はそろばんを作っている方は非常に少なく、実際に使われていない。播州織にしても、金物にしても構造的な要因が大きい。農業、林業にしても一次産業は下がっていく一方だ。そういう状況で、宝の持ち腐れのような宝だったら意味がないと思う。例えば観光産業化するとか、新しい視点を入れないと活性化するのはなかなか難しい。農業については国も有機農業の面積を全耕地面積の 25%にすると言っている。北播磨には田畑など農業基盤がそろっているが、37%という日本の食糧自給率という事情もあり明るいビジョンを描くのが難しいところがある。しかしその辺りをもう少し踏み込んでもいいのではと思う。

## [委員]

・細かい話だが、鬼滅の刃は 30 年後はどうだろう。今、最盛かもしれないが。6G と書いてあるが、今 5G だから 9G、もっと行っているかもしれない。少し中途半端で、未来を描くなら、とことん行ったほうがいいのではないかという印象はある。

(事務局：30 年後と言いながら、今の延長のような記述があるのは確かだ。一方で、例えば仮面ライダーは 50 年続いている。)

会長が言われるように、少し齟齬があったり、なりきれないところもある。

## [会長]

・27 ページに副業の楽しみとあり、私は公務員として・・・とあるが、公務員法を改正しないと職務専念の義務に違反してしまうことになる。先の事だからいいと言えはいいが、副業という言葉が出てきた経緯が、給料が低く生活ができないため、副業で補うことを推奨したことによるため、ここで記載するのはどうかと思う。それより、今の大きな雇用問題は、非正規雇用者の割合の増加だと思う。労働者の 4 割が非正規で、女性では 7 割が非正規だ。そういう労働条件が非常に悪い中で働いている人がたくさんある中で、副業の楽しみということを書くことに違和感がある。

## [事務局]

・ここでいう副業というのは、どちらかという、起業に向けて、自分がやりたいことに向けて、「会社にしばられずに働くのも OK ですよ」という会社もあることも踏まえ、いろいろな働き方の一つとして、副業という選択肢も出てきているということを書いている。言われているような生活が苦しいから副業しているというイメージは、今の副業には全くなく、違う考え方で副業を捉えられ始めているので、そういう方向で書いている。このシーンを書いた本人も、そういう動きを受けて書いていると思う。

## [会長]

・大企業も昔だったら一つのビジネスモデルがあって、その製品だけを作っていたが、今はいろんなことをやっている。その中でいいものを拾い上げ、それを育てている。一般に副業といった場合には、企業が別会社を立ち上げて、需用にあったマッチングをしてニッチを探していく。そうすると、もうマーケット的にはいっぱいだと思うと

ころでも、ニッチなところを見ていけばナンバーワンやオンリーワンになるところがある。このような起業の場合は有意義なことだが、労働者が副業という場合は、現在の労働状況を考えればいろいろな問題を含んでいる。

#### [事務局]

・ここは学問的な話ではなく、自分が 30 年後、2050 年にこういう生活ができればいいな、これを読んだ方が、1 つでも 2 つでも共感できるものがあればいいなというイメージで、自由な発想で書かれたものだ。2050 年の姿というのは誰もはっきりとしたことがわからない。だから 2050 年にどういう生活をしたいかということを書いてもらっている。あまり学問的に書けばワクワク感がなくなってくる。将来、今の姿がどう変わっていくかわからない。今とは変わっているということを前提に書いてもらっているつもりだ。

#### [会長]

・あくまで主観的なものなので、他の客観性のあるところと字体も変えたらいいのではないかと申し上げたのは、そういう点があったからだ。学問的な意味ではなく、いろんな意見があるが、読む人にもいろいろな人がいる。県の文書なので、誤解が生じることにならない方がいいのではということで申し上げた。

#### [委員]

・今のポイントは、私は公務員としてとあるところで、公務員の副業云々というのを公的な県の文章で出すことに問題がないかということだ。公文書とはいえ、そういうことが問題になりそうな、そこまで足かせのある文書とは思えない。事務局が言われたように、もう少しフランクに、今現実に法的な根拠があるかないかは別にして、30 年前の高校生、大学生は、こんなことを考えていたんだと、おおらかに見てくれるのか、県の機関が公的な文書として出すことが、言質を取る攻め方をされるのかということだが、それがなければ、現実性がないとか、現在の法令に照らし合わせると良くないとかいうと、何も未来を語れなくなる。それ以外にも、例えばドローンを飛ばすことにしても、法令的に現実的でないとか言い始めると、何も言えなくなってしまう。ここはもう少し、遊びの設定でいいのではないかと私は思う。

#### [事務局]

・そういうことがわかるような説明が必要だと思う。ここは、皆さんから出てきた意見を集めて、遊び心を持って書いている。

#### [委員]

・中途半端な遊び方になっている。例えば、今の副業のところで言うと、平等に副業の機会があると書いたら、今が不自由なように見える。現状否定のような感じに読めてしまう。これを例えば、今は生きがいの一つだけに決める時代ではないので、副業を持っている人が増えた。と書けば、別に批判でもなんでもない。現状否定ではなくなる。そういう書き方の工夫ができないかと思った。

#### [委員]

・副業という言葉が、昔はあまり良いイメージでなかった。

#### [事務局]

・昔は、生活の糧のような要素が強かった。

#### [会長]

・今でも企業によれば企業秘密が漏れるので、他で働くのは禁止しているということがある。この産業や労働の分野で、いろんな働き方について触れていくのであれば、もっと大きな問題がある。今は仕事の流れの中の一部だけを担当するようになり、大抵の仕事が分轄され、やりがいを感じるができない人もある。金儲けだけでな

く、やりがいを感じ、人のためになっているのがうれしいと思えるような社会を作っていくことが大事だと思う。違和感があるというのは、副業以外の大事なところが抜けているので、そのあたりのところだ。

#### [委員]

・北播磨 2050 年の生活シーンという言葉、例えば北播磨 2050 年のワクワクイメージみたいなちょっとふざけてみたらどうか。

#### [会長]

・Web 等でもいろいろな意見を言っている。そういう感覚のところはいいが、これは県民局が書いているものだと見る。皆さんから出てきた意見だが、ここで文章化し編集している時点で、当然そこに結論が入っていると思うのが、一般の考え方だと思う。みなさんがイメージしやすいように書くなら、最初に説明がある方がいいし、生活シーンという言葉でなく、ワクワクイメージとか主観的なものだという伝え方をすれば、そういう誤解もなくなるのではないかと。生活シーンの所を読んで、そんな場面があったのかと、柱のイメージが膨らめばうれしい。

#### [事務局]

・会長が言われるように、これだけを読んだら、今公務員は副業できないが、30 年後には副業できるようになっている。といった読み方もできる。工夫したい。ただ先ほども申したように、30 年後はいろいろな働き方、時間の使い方ができるのではないかとというのが根底にあり、1 つの仕事だけするのではなく、多様な働き方もあるということ、産業・雇用のところに入れているが、会長が言われたような誤解があってもいけないので、もう一度検討したい。会長が懸念されていることは理解している。

#### [委員]

・これが言質とられて、足元すくわれることになるのだったらやめておいた方がいいが、そういうことでないのなら、これは冊子を作った時に、一番アピールしたい世代はどういう世代かということだ。例えば私達のような世代が読むとそういう風に読めるので、法整備が必要だとかいった目を見て、少し顔をしかめるようなことになりかねないと思う。そういう人たちの意見を重視するのか、今 10 代 20 代の人たちが、30 年後にこうなればいいなど、いろんなことを言っているのを温かく見守るような世代に、その人たちが自由に書いていることだから、大目にみてよと、言質とられないように、仮にとられたとしても、それはそれで理解してくださいませ。というようなスタンスで、その世代をターゲットにするのかで変わってくると思う。だから、会長や委員が言われたように、それについての解説をいれることで、そんな目くじら立てなくてもいいのではないかと、みんなが思えるようなエクスキューズがあれば望ましいのではないかと。

#### [会長]

・読んだ人の願いや想いを誘発するような運び方も大事かと思う。そのためのサンプルで、私たちはこう思うが、あなたはどうかと、暗に語りかけるようなものでいいのではないかと。そういうようなサンプルになりそうなものを、あまり内容が重ならないように書いていけばいいのではないかと。

#### [委員]

・私も同じ意見で、今の問題や課題を否定するような書き方よりも、ワクワクする未来みたいなものが表れてほしい。「あの時代はこうだったけど今はこうなんです。その時代にはこんな生活になっていて、前向いて進んでいます」みたいなものがほしい。30 年間だめなままではさみしい。今の否定ではなくて、将来なんらかの前進みたいなことが表れていたらいいと思う。そういうものがあって、そこに初めて進んでい

ける。

**[会長]**

・同感で、将来像には必要性や実現可能性も考慮しないといけないが、何よりも願いや想いなどポジティブなイメージを大切にしたい。

・次に新たな問題提起であるが、13 ページの 5 つの柱立ての 1 つ、「誇れる地域」という文言について、これまで検討委員会で検討し、これでいいという意見だが、皆さんどう思われるか。将来像の他の柱は、自然環境保全、多世代交流・多文化共生、産業・雇用、歴史文化・観光と、いわゆる分野別になっているが、「誇れる地域」は、他の柱と異なり、「誇れる」という価値観が前に出ている。これは産業など他の柱でも底流として流れているものであろうし、異なる範疇に属するのではないか。加えて「誇れる地域」と括ることで、生活、ファミリー、健康、高齢者や子育て、待機児童の問題とか一番身近でしかも大切な生活上の諸問題への観点、影が薄くなり踏み込み難くなる。

**[委員]**

・今の誇れる地域については前回の委員会でも議論があり、同じような意見があって、誇れる地域に落ち着いたが、それをさらに再検討ということになると、ただ問題だというだけではなくて代替案が必要だ。もしこれを使わないとすれば、言葉そのものがカテゴリとして浮くということであれば、誇れる地域という中身の主旨はさておき、言葉だけを合わすのであれば「地域と生活」とすれば、他の言葉とカテゴリは一致してくる。そこを重視するのであれば、修正案は「地域と生活」というような言い方かと思う。

**[会長]**

・「地域と生活」であれば、「生活」という言葉で一人一人の幸せとか住みよさなど個人の視点に立っての地域のあり方も包摂した表現になるので良いと思う。

**[委員]**

・暮らしとか、地域と生活、地域と暮らしでもいいのでは。

**[委員]**

・そうすると他の柱が全部、漢語だから暮らしは和語になる。一体感を重視するために、生活とした。誇れる地域というのはそういう一体感を崩した言い方にしていた。

**[委員]**

・最後に持っていったらどうか。それぞれをつなぐものというか、こういう地域を創生するためにこういう関係性が大事だということで、最初か最後にするのもどうかという気がする。

(事務局：順番は、きたはりまという文字を頭にしているので、変更できない)

**[事務局]**

・前に委員と誇れる地域のことについて話したときに、「協働協調」という言葉をいただき、よく馴染むと思っていたが、今、「地域と生活」という提案を改めていただいたが、みなさんはいかがか。

**[委員]**

・今の議論を聞いていると「地域と生活」の方が馴染むように思う。

**[会長]**

・「協働協調」は動詞のイメージが強く、他の柱とは、カテゴリーが異なる。「地域と生活」の方が馴染むと思う。

**[事務局]**

・生活シーンの話だが、若い人といえば、兵教大の学生に意見を聞けないか。今記載

のシーンは一例だけだ。起草部会でどういう意見が出るかわからないので、サンプル的にあげている。項目立ててというような意見もあったので、もう少し意見を聞きたい。

**[委員]**

・一般的にこういうのは、地元の学生なら考えてくれるのだろうが、兵教大の学生は、地元の学生が少ないので、それに応じる学生は少ないと思う。一方で、かつてビジョン委員会に数人いたが、そういう学生はいる。ボランティアセンターを通すといいと思う。

**[会長]**

・今日頂いたご意見については、事務局で検討いただけると思うので、お尋ねがあればご協力よろしくお願ひしたい。

**[事務局]**

・第 5 回起草部会を終わります。また、検討委員会で素案を見ていただけるときに日程調整したいのでその時はよろしくお願ひする。